International Cooperation Center for
Agricultural Education, Nagoya University

ICCAE news

No.18 2010.12.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成22年12月1日発行　通巻18号（年2回発行）

発 行／名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225（受付）FAX 052-789-4222
http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

第11回オープンフォーラム
「農学国際協力：新たな学問の創出に向けた知の集積」を開催

さる2010年10月21日、22日の両日、「農学国際協力：新たな学問の創出に向けた知の集積」と題したオープンフォーラムが名古屋大学野依記念学術交流館において開催されました。本フォーラムは、日本の農学がもつ潜在力、特に最先端の科学技術という知をどのように国際協力に生かしていくかという観点から企画されました。２日間のフォーラムを通じて、大学などの教育機関、国際農林水産業研究センター、国際協力機構などの政府機関をはじめ関係各方面から多数の参加者を受け、興味深い発表と熱い議論が展開されました。

第１日目は、まず、（独）農業・食品産業技術総合研究機構の堀江武理事長およびUniversity of East AngliaのShawn MacGuire教授による基調講演が行われました。国際協力という現場における農学の展開は、先端科学技術の展開という意味だけではなく、細分化された「先端」農学を統合化された農学へと再構築し、グローバルな視野を持つ若い人材開発にも重要です。これら２つの基調講演により、大学が主導権を発揮し、国際協力に強い関心を持つ人材の育成を行う必要性が示されました。

引き続き、７つのケースレポートにより、日本の農学がさまざまな形で、国際協力という現場で展開されていることがつまびらかにされました。山形大学の佐々木由佳助教および三重大学の江原宏教授によるレポートでは、学生や若手研究者の海外派遣、留学生の受け入れなど、両大学における国際協力活動が紹介され、続く北海道大学の金川弘司名誉教授からは、同大学が永年にわたり取り組んできたザンビア大学獣医学部の創設に関する報告がありました。新潟大学の木南莉莉教授は、農学国際協力における知識の創造において、知識の供給とともに重要な知識のガバナンスの理論について報告を行いました。国際農林水産業研究センターの中谷誠企画調整部長は、同センターの研究者招へいプログラムの概要について、また名古屋大学の伊藤香純准教授は、カンボジアにおける農産物加工産業振興のモデル化事業と同事業を通した人材育成活動に関する報告を行いました。岡山大学の前川雅彦教授からは、同大学が東アフリカで展開する実証研究に関する報告がありました。

第２日目に行われたパネルディスカッションでは、九州大学の緒方一夫教授をモデレーターとして、活発な議論が展開されました。名古屋大学大学院国際開発研究科の西川芳昭教授からは、国際開発学との住み分けに関し、農学国際協力に対する期待も含めた問題提起がなされました。文部科学省の梅津径国際協力調査官から、国際協力イニシアティブの成果に関する報告があった後、前日の報告者に加え、国際協力機構の時田邦浩国際協力専門員も参加し、日本における農学国際協力分野での人材育成の現状に関する議論、将来のあるべき姿について活発な議論が続きました。

２日間にわたる報告と議論から、農学分野では活発に国際的な展開がなされていることが明らかとなり、これらの「知」を集積し、統合・体系化する必要の重要性が感じられました。　（前多敬一郎）

パネル・ディスカッション